

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

SK 18087
SK 18086
神機構一82

③施設名等

名称：	強羅暁の星園
施設長氏名：	佐藤 健
定員：	50名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1945/10/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人唐池学園
職員数 常勤職員：	25名
職員数 非常勤職員：	5名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（イ）	幼稚園教諭
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（ウ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（オ）	教員
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（カ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	8部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	アフターケア室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p><基本理念> 日々の生活の中で児童の一人の人間としての権利を守り、児童が互いにその人格を尊重しあいながら将来の自立に向けて生活することができるよう、またひとりの社会人として成長するように養育・支援する。</p> <p><養護の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誠実…自分の行動と言葉に責任を持つ子 ・ 勤勉…毎日の生活のなかで、忍耐をもって行動する子 ・ 愛徳…自分自身、まわりの人やものに温かい思いやりをもって大切にする子

⑤施設の特徴的な取組

<p>○職員との愛着関係、信頼関係を構築するため、園長を始め全職員が子どもと過ごす時間を一番大切にしている。職員寮が園の隣りにあり、台風等の自然災害時も、子どもたちは安心して生活を送ることができている。16時から18時は、子どもたちの不安が一番現れ、問題が発生しやすい時間帯であるため、特に配慮した関わりを持つようにしている。</p> <p>○自立支援の第一歩である学習は、多くの職員が公文の指導者の研修を受け、学校の宿題や公文学習を一日の流れに組み込んでいる。知識の習得だけでなく、子どもたちに学習の習慣が身につくよう取り組んでいる。</p> <p>○子どもたちはこれまで、小学校入学時から学童寮に移って生活していたが、今年度より、子ども一人ひとりの特性をよく見て、小学校1年になっても幼児を対象とした混成寮で引き続き生活ができるよう配慮している。子どもが安心して、生活できる環境を整えている。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/7/19
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/2/3

⑦総評

○戦後まもなく設立された歴史のある施設で、基本理念の下、中舎制の特徴や職員のチームワークの良さを活かし、職員全体で子どもたちの養育・支援の質の向上に取り組んでいる。子どもたちは、混成寮と、男子学童寮、女子学童寮に分かれ、日々の生活を送っている。

○基本的に子どもたちのやりたいことや自主性を尊重している。集団生活の中で問題が起こった時には、まずは子どもの思いを受け入れてから、別の方法もあることを教えて、次につなげるようにしている。自分の中に選択肢がなく、同じことを繰り返してしまう子どももいるので、子どもの発達状態に応じた対応方法について、会議等で内容を共有し、話し合いを行っている。

○子どもたちの発達の状況をよく観察しながら、子どもに合った養育をどのようにしていったらよいか探っている。遊びや学習のボランティアには、大学生や近くのホテルの従業員の方が関わってくれている。子どもたちはバディを組み、年上の子どもが年下の子どもを見る仕組みが定着している。

○月1回、部屋会議を開催し、年長者がユニットの子どもたちの意見をまとめている。部屋会議では、バスケットボールをしたい、カラオケをやりたい等の意見が上がっている。また、苦情解決用のポストを設置し、年に数件だが、子どもたちが意見を寄せている。園では常に職員が子どもに寄り添い、話を聴き、一緒に遊ぶことを意識して行っている。

○子どもたちが、職員の誰にでも話ができる体制を整えている。子どもたちは、側にいる担当者や指導員、フリーの職員等いつでも相談している。女子は担当より、フリーの女子職員に話すことが多い。個人的な相談等は応接室を使用し、職員と一対一で話を聴くようにしている。

○園内に電力消費状況がわかる電力時計を設置し、園全体で節電に取り組んでいる。節電の成果は、子どもたちの生活に還元するようにしている。

○園全体で地域の活動に積極的に参加している。職員が学校のPTA役員や、町の要保護児童対策地域協議会の委員等を担っている。子どもたちは日曜日の地域の清掃を継続して行っている。挨拶や時間の厳守、金銭管理等、卒園までに子どもたちに伝えたいことが多くあるが、いつもひとつ先のことを考えて行動できるように伝えている。

○職業指導員が中心になり、進学や進路の支援を行っている。子どもの将来の夢を聴き取り、夢を実現するためには学習が必要であることに気付くことができるよう、自分の意思で学習に取り組むことを目指している。大きい子どもの学習への取り組み姿勢は、小さい子どもにも良い影響を与えている。

○子どもたちの退所後の個別支援の充実を図っている。退所した子どもたちや退職した職員と交流できる日を設ける他、「大文字焼き」等の地域の行事等で、退所後もつながりを持てるようにしている。「アフターケアは一生涯」、「いい大人に育てる」ことが自分たちの仕事であることを、職員は普段から心に留めている。子どもたちの退所後の連絡先を把握し、子どもたちがいつでも遊びに来たり、相談に来ることができる環境を作っている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回3回目となりましたが、引き続き公益社団法人神奈川県介護福祉士会に第三者評価を実施していただきました。お互い顔見知りとなり、慣れているにも関わらず、きちんと事業説明、研修会等行っていただき、改めて第三者評価の重要性を皆で共有認識し、取り組むことができました。調査に当っては当施設の現状にご理解いただき、尚且つ6年間の成長を評価していただきました。まだまだ課題がありますが、引き続き子どもたちのためにより良い支援をさせていただき、更なる向上を目指して頑張っていきたいと思っております。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

理念、基本方針は、「強羅暁の星園養護計画」に記載し、年度末の養護計画会議の場で、職員に周知している。「強羅暁の星園養護計画」は全職員に配布し、周知を図っている。法人の理念は、園長室や会議室にも掲示している。保護者への周知は、入所の際に説明するとともに、年1回12月に開催する保護者会の中でも説明している。子どもたちへは、月1回開催するリーダー会で、気になることや重点目標等を伝えている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

園長と統括主任が町の要保護児童地域対策協議会に参加して、地域の状況や問題、ニーズを把握するよう努めている。社会福祉事業全体の動向については、園長が法人の施設長会や県児童福祉施設長会に参加して把握している。把握した内容は、職員会議等で園長より職員に伝えている。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

園の経営課題については、毎月の職員会議で、園長が職員に報告している。児童養護施設が小舎制や里親制中心に向かっているが、その現状についても、職員に説明している。園の建物が「建て替え」の時期を迎えていることから、園の経営状態も説明し、建て替えのコスト高に備え、節約等の働きかけを行っている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

「家庭的養護推進計画」を策定し、中・長期的な計画として、今後の課題や問題点を捉えている。業務内容において、数値目標を立てることがイメージしにくいいため、具体的な数値目標は立てていないが、職員の人材育成と連携の強化等を、今年度の重点目標としている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

中・長期計画を踏まえ、今年度の基本方針や重点目標を策定している。今年度の重点目標として、①自立に向けた児童の生活環境整備、②健康な体を作るための食事教育、③職員の人材育成と連携強化、④学習環境の整備をあげている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

「養護計画」の策定にあたっては、園長面談や日々の関わり等の中で、職員の意見を集約するよう努めている。「養護計画」は園長と複数の中堅職員がまとめ、3月末の養護計画会議の場で、全職員を対象に内容を説明し、確認を行っている。「養護計画」は全職員に配布するとともに、園内に掲示している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

保護者には、年1回開催する保護者会の中で、今年度の計画を口頭で説明している。また、行事等の実施状況は、年2回広報誌を発行し、保護者に報告している。子どもたちへは、リーダー会の中で話し、各寮に伝えている。行事の予定等は、各寮や調理室前のホワイトボードに掲示している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○

	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
水曜日に各会議を開催し、養育・支援の質の向上に向けた話し合いを行っている。第1水曜日に混成寮部署会、第2水曜日に学童寮部署会、第3水曜日に職員会議を開催し、運営上の課題等について、検討、協議している。部署会では、前月の取り組みについての評価を行い、養育・支援の質の向上に向けた取り組みが、PDCAサイクル（計画・実行・評価・改訂）に沿った取り組みとなるよう努めている。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
部署会を中心に、また必要に応じて職員会議の場等で、改善策を検討している。最近の検討内容としては、ヒヤリハットであがった事例の振り返り、不適切な言動のあった子どもへの対応の仕方、掃除が抜けていないか等の業務内容の見直し等を行っている。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
園長の役割と責任については、「養護計画」の業務分掌に明記している他、職員会議の場等で職員に伝えている。「養護計画」には、重大な事故が発生したときの園長の連絡先や、苦情解決責任者は園長であること等も明記している。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
遵守すべき法令等を正しく理解するため、園長が必要な研修等に積極的に参加している。国の方針や動向等も把握し、職員会議等で職員に内容を伝えている。以前あった労働基準監督署からの指摘等にも早急に対応し、6月からタイムカードの導入を行っている。		

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

園内で開催する会議等には、可能な限り園長も参加している。また、毎日の朝礼にも園長が参加している。子どもたちや職員向け園長室を開放し、いつでも気軽に入室できるようにしている。混成寮の子どもたちとは昼食を一緒に摂り、週2回、学童寮の子どもたちと夕食を共にしている。地域で開催される行事等にも園長が積極的に参加している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

職員会議の場等で、園長より経営方針の説明を行い、建て替えに向けてのプランを提案している。また子どもたちにも生活訓練の一環として、省エネの見える化をすすめ、使用電力量が確認できる電力時計を園内に設置している。子どもたちも電力時計を見て、「消費量が多いよ」等と注意している他にも、省エネ活動として、各部屋のトイレの節水や洗剤、浴室の石鹸の変更等がある。省エネ活動は、子どもたちの退所後の将来に役立つようにしている。園長と職員の面談は、年1回、希望や、困っていること、仕事量のこと等、事前にアンケートを行いながら実施している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通)	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

現在、調理職員が不足している状況であるため、人材の確保に向けて求人サイトに申し込む等、求人に力を入れている。ホームページを見て就職を希望する人も多いため、子どもの様子や職員の親睦の状況がわかるようにしている。就職相談会では、パソコンのスライドショーにて、園の様子を紹介している。また、統括主任が大学等に赴き、学生に向けて児童養護施設の理解を深める活動をしている。園での実習から就職につながるケースも多いため、実習生をしっかりと見ていくことを心掛けている。実習生には、実習終了後、アンケートを行い、意見等を聞き、実習環境の向上に努めている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

子どもの養育・支援は、一定の人事基準で測ることは難しいため、人事考課等は取り入れていない。園で期待する職員像については、法人全体の新任職員研修で示し、どの施設でも通用する職員を目指してほしいこと等を伝えている。年1回園長と職員の面談を実施する等、職員の意向や意見を確認している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

有給休暇を年間10日以上取得できるよう配慮し、長期の休みの希望も、できるだけ希望に沿うようにしている。職員の親睦会「親和会」が、職員歓送迎会の食事会や、研修目的の旅行等を計画、立案している。冠婚葬祭時の休みの取り方に配慮したり、公休日を固定したりして、職員が働きやすい職場作りに努めている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】
園長面談や幹部面談を定期的に行い、職員一人ひとりの課題を伝え、目標を確認している。職員一人ひとりの育成は、OJT（職場内の現任訓練）を基本とし、相談したい時には誰にでも相談できる体制を整えている。職員が一人で問題を抱え込まないよう留意し、チーム全体で動くことを基本としている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】
園が期待する職員像については、法人全体で開催する新任職員研修で示している。統括主任を研修担当とし、外部研修は、内容を掲示し、職員に参加希望を聞いている。公文学習の研修等の内部研修を行う他、月1回開催する部署会では、皆の前で発表する経験を積んでもらうことを目的に、月毎に職員が交代で話をする場を設けている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】
職員それぞれが、年3回以上は外部研修に参加し、希望する研修にもほぼ参加できている。外部研修参加後は、研修報告書を提出し、職員会議で内容を発表し、園全体で共有している。外部のスーパーバイザー（対人援助職の教育における指導者）は入っていないが、基幹的職員をスーパーバイザーとし、園内でいつでも相談ができる体制を整えている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習担当を置き、担当者から実習生の受け入れの姿勢（社会福祉と保育実習生の受け入れについての視点の違い、プログラムの違い等）を、職員会議等で、職員に説明している。実習生の受け入れは、教えることで自分を振り返り、気づきにもつながることから、職員の勉強の場として捉えている。実習生との反省会の持ち方についてもOJTを行っている。実習生は、今後も積極的に受け入れていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】 運営の透明性を確保するための情報公開は、法人や園の広報誌、ホームページ等、複数の手段により行っている。園の広報誌は年2回発行し、児童相談所や地域の自治会、学校関係、ボランティアの方々等に配布して、園の取り組みの状況を伝えている。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】 一昨年より、外部委託の会計士が2か月に1回来園し、内部監査を実施している。また、法人の事務員向けに、会計士による研修会を開催している。労務関係については、法人として社会保険労務士を置き、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みを行っている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		

地域との関係を良好に保っている。自治会の子ども会の運動会や清掃活動に多くの子どもたちが参加し、地域の軟式少年野球チームは園の子どもたちが中心になって活動している。地域の中で顔の見える関係作りに努め、保育園や小・中学校のPTAの役員を職員が担っている。子どもたちのアルバイト先も地域の方がすすめてくれている。防災関係の地域の集まりには、園長も参加している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアの受け入れは、事前に必ずオリエンテーションを行っている。周辺地域の企業、町外在住の方のボランティア活動も積極的に受け入れ、ボランティアの総数も増加している。学習ボラや小さな子どもとの遊びボラ、行事の手伝いのボラ等、多くのボランティアの方が活動している。子どもたちの似顔絵を描いてくれるボランティアの活動もあり、似顔絵は園内に掲示している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

学校や児童相談所、病院その他必要な機関との連携を密に行っている。保育園や小・中学校は5月頃に家庭訪問があり、新しい担当者との関係作りを行っている。5児童相談所とは5、6月に顔合わせを行い、子どもたちの状況に合わせて連携している。病院との連携では、医師との関わりだけでなく、医療ソーシャルワーカーとも良好な関係を保っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 「施設(法人)」が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域の特性として、子どもが少ない状況にあるが、その中でも、地域の中で保護が必要な子どもや子育て支援が必要な家庭の把握に努めている。地域との関係が良好なことから、日常の地域の方々との会話の中から、地域のニーズを把握している。地域の子ども会の活動の場として、園の機能を提供している。地域の中でショートステイの需要があるか等、必要性を確認し、対応していく予定である。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○

<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

町内外を問わず、民生・児童委員の見学等の受け入れを積極的に行っている。地域の学生の体験学習の受け入れもしている。地域の特性として、子どもが少ない状況にあるが、その中でも、地域の中で保護が必要な子どもや子育て支援が必要な家庭の把握に努めている。地域との関係が良好なことから、日常の地域の方々との会話の中から、地域のニーズを把握している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
-------------------------	-------------

① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「暁の星」は、人の歩む道しるべとなる聖母マリアを表し、園の名称の由来について、職員に説明している。子どもたちの権利や人格の尊重等を基本理念におき、「強羅暁の星園養護計画」の冊子を、毎年全職員に配布している。年度初めには、冊子に沿って養護・支援のあり方を職員会議で説明し、職員間で共有している。

② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの居室は全室個室ではないが、タンス等でプライバシーを守るよう工夫している。子どもたちは、常に家族が身近にいるという感覚で、他の子どもや職員と話をしたり遊んだりして、毎日を過ごしている。寮内に貴重品を入れる鍵のかかるロッカーを用意しているが、使用している子どもは少ない。子どもたちの意見を聞くポストを園内に設置している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	
--	--

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

園のパフレットに、基本理念や園での生活の様子、園の建物や環境等をイラスト入りでわかりやすく説明し、「強羅暁の星園ってどんなところ？」と、質問形式で案内している。入所予定の子どもには保護者とともに見学を促し、丁寧に説明している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自分の状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所にあたっては、児童相談所のケースワーカーから、子どもの権利ノートの説明を行っている。保護者にはパンフレットを使い支援の方法等を説明しているが、保護者の中には「きちんと育てているのに、何故、ここに入れないかならぬ」との声もあり、現状をよく理解できていない方もいる。そのような保護者には時間をかけて、特に丁寧に説明している。養育の開始にあたり、子どもたちには、これからの生活のことをわかりやすく説明し、理解を促している。子どもの担当職員から、責任を持って連絡や相談に関わることを、保護者に説明している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

昨年は家庭復帰の小学生が1名いた。退所時に家に帰りたくないと言って泣いていたが、保護者には、温かく見守ってほしいこと、困ったことがあった時は、すぐに連絡してほしいことを説明し、家庭復帰につなげている。退所後のアフターケアは「必要とされれば一生涯」をコンセプトに、職員が定期的に家庭を訪問し、安定した生活を送ることができるよう支援している。知的障害児施設に措置変更した子どもが以前いたが、定期的に職員が訪問し、継続して関わりを持った。今年度の退所者には、大学・専門学校進学希望者がいる。退所後は毎年「暁の星会」という退所者が年1回集まるイベントを企画して、子どもとの関係を継続するようにしている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

月1回、部屋会議を開催し、年長者がユニットの意見をまとめている。部屋会議では、バスケットボールをしたい、カラオケをやりたい等の意見が上がっている。また、苦情解決用のポストを設置し、年に数件だが、子どもたちが意見を寄せている。強羅暁の星園では、常に職員が子どもに寄り添い、話を聴き、一緒に遊ぶことを意識して行っている。登校前の時間に、職員とキャッチボールをしたり、学校から帰ると職員と一緒にバレーボールや卓球、バスケットボール等を行っている。子どもたちはとても満足し、大人との関わりも楽しいということを実感している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮しながら、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「強羅暁の星園養護計画」に、苦情解決の仕組みを明文化し、職員に周知している。苦情解決の仕組みは、保護者や子どもにも説明しているが、苦情が上がるケースは少ない。子どもたちからの意見は、常に近くにいる職員が受け止め、子どもたちが職員に気軽に話ができる環境を整えている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちが、職員の誰にでも話ができる体制を整えている。子どもたちは、側にいる担当者や指導員、フリーの職員等にいつでも相談している。女子は担当より、フリーの女子職員に話すことが多い。話の内容は人間関係のことが多い。子どもたちは、ポストや部屋会議の場等よりも、口頭で職員に直接話をしてくることが多い。個人的な相談等は応接室を使用し、職員と一対一で話を聴くようにしている。心理士と積極的に話したいという小学生も多い。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの相談や声は、職員が話をよく聴き、子どもと一緒に解決策を考えるようにしている。また、相談や意見の内容は、職員会議で共有している。すぐに解決できない内容は、職員会議で検討し、子どもたちに結果を伝えている。部屋会議の中で、部屋の電気を直してほしい、園内レクリエーションをやりたい等が上がり、子どもたちの希望には、すぐに対応するようにしている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

安全環境整備係を置き、園内外の物品に破損等が生じた場合は、確認した職員が対応し、内容を報告している。今回の台風19号では、建物の防備、水の確保等、園長の指示の下、全職員が安全の確保に全力を尽くしてきた。観測史上歴代1位の雨量だったが、温泉が出なくなったこと以外は、大きな問題は発生しなかった。電車通学している子どもたちも職員が車で迎えに行き、無事に園に帰ってくることができ、日ごろの職員のチームワークを確認することができた。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

令和2年4月まで、看護師の配置がなく、また町で唯一の整形外科が閉院してしまったため、病気やけがの受診は、遠隔地の病院まで行かなければならない大きな問題を抱えている。そのような状況をふまえ、感染症の予防や対策を適切に行うため、衛生推進者を担当とし、感染症の予防に努めている。保健所嘱託医の指導の下、手洗いやうがい、消毒等を励行している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
<input type="checkbox"/>	災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

立地上、災害が発生した場合は、消防車や救急車の到着に時間がかかるため、園内で自衛消防隊を組織し、全職員が役割を担い、日頃より訓練を行っている。年間の防災訓練計画により、定期的に防災訓練を実施している。災害発生時に備え、園内職員、消防署、児童相談所、県庁、修道院等への連絡網を作成している。また、すべての子どものベッドわきには、ヘルメットや靴、衣類等を置いている。非常用の食品を3日分備蓄する他、テントや毛布、ガスボンベ等も防災倉庫に備え、防火管理責任者が管理している。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

「強羅暁の星園養護計画」に、基本理念の下、養育・支援についての標準的な実施方法を記載し、全職員に周知している。実施要項を全職員に配布し、自立支援計画作成の勉強会を行っている。学習後、担当職員は、先輩職員から指導を受け、自立支援計画を作成している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画の見直しは、6か月ごとに行っている。子どもに大きな変化があった場合は、随時、計画書を見直している。計画書策定時や、見直し時には、必ず子どもと面接し、子どもたちの思いを計画に反映するよう努めている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画を策定する際は、担当者が子どもと話し合い、どのような生活を送りたいか目標を決め、自立支援計画書案を作成している。その後、栄養士、他職員との部署会で内容を検討し、児童相談所のケースワーカーや主任とともに会議を行い、子どもの同意を得て、最終的な計画としている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画書の見直しは、手順を決め、6か月ごとに定期的に行っている。見直しの際は、子どもと話し合い、計画に添った生活を送ることができたか、今後はどのような目的を持って生活していきたいか等を評価、確認し、次の計画につなげている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

記録類は個別のファイルにまとめ、アルバム等と一緒に、鍵のかかる部屋で保管している。内容はいつでも職員間で共有でき、自分の担当の子どもだけでなく、園で生活している子どもの状態を全職員が把握できるようにしている。自立支援計画書その他必要な書類の記入の仕方は、先輩の職員が指導している。中堅職員は若い職員に、子どもへの対応、記録の方法、今回の第三者評価のヒアリングの方法等を丁寧に指導し、職員教育を行っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

記録類の管理規程を整備し、園長を管理責任者としている。管理規程にのっとり、記録類の保管や情報の提供等を行っている。個人情報保護規程も整え、職員に周知している。特に、ブログ等での写真掲載に配慮している。個人情報保護の内容は、保護者や子どもにも説明している。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。

【コメント】

新任職員研修やフォローアップ研修として、法人全体で「子どもの権利擁護研修」を開催している。また年1～2回、近隣の5児童養護施設合同で、権利擁護に関する研修を企画、開催し、若手の職員が参加している。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利カードやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

全国児童養護施設協議会の倫理綱領ポスターを、園内に掲示している。子どもたちへは、4月に「権利」について説明し、6月には児童相談所から「権利ノート」の説明を受けている。子どもたちがいつでも自分の気持ちを表せる環境を整えている。子どもたちの中には、良くないことを押し通そうとすることもありますが、自分の権利と同様に、他の子どもにも権利があることを伝えている。CAP（子どもへの暴力防止プログラム）研修等を、毎年、行っている。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの生き立ちとは、子どもが知りたいと求めてきた時に適宜対応している。子どもの年齢によって、アルバム等の資料を使い、他の子どもがいない場所で話をするようにしている。子どもたちとの日常の会話の中から、自分の生き立ちを知りたいという気持ちがあるか、職員が察するようにしている。児童相談所や乳児院、退職した職員の協力も得て、子どもの昔のことを確認することもある。生き立ちを振り返る子どもより、むしろ向き合うことができない子どもに問題があると捉え、関係する研修会に参加して学んでいる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがあつて、不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けない。	<input type="radio"/>

被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。

【コメント】

小学校低学年向けと、高学年向けのCAP研修を3年間継続している。被措置児童の虐待は起こりうるものと意識し、虐待の予防に取り組んでいる。予防には多くの職員の目が必要であると捉え、新任職員が困った事例をまとめ、不適切な行動とは何かを考える研修や、CSP（コモンセンスペアレンティング：暴力や暴言を使わずに子どもを育てる技術）等の研修を定期的に受けている。また、職員の心理面をフォローする面接や、スーパービジョンを行い、現状の確認と振り返りを行っている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	

【コメント】

子どもたちは、部屋会議やリーダー会で話し合いを行っている。集団生活におけるルールは最低限のものとしている。昨年より、電力時計を皆が見えるところに設置し、園内の節電に取り組んでいる。余暇の過ごし方や習い事等は自由に選択できるようにしているが、費用や指導者不足等の面で、どうしても自由な選択には限界がある。限界はあるが、卒園した子どもたちからは、「勉強やスポーツは園にいたからこそできた」という声も上がっている。近所に買い物ができる店がないため、買い物等の経験が不足していると感じている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設室体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所前には、1～2回、職員が面接し、「今度遊びに来てね」と子どもに伝えている。その後は、本人の意思を確認して、園の見学等につなげている。入所当日には、好きな食事のメニューを用意して迎え、これまで大事にしてきたもの等は、園に持ってきてもらっている。園の子どもたちには、入所してくる子どもの名前や得意なこと等をホワイトボードで伝えたり、事前に話をしたりして、園全体でスムーズに温かく迎えらるるようになっている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職業指導員を置き、退所後の個別支援の充実を図っている。退所した子どもたちや退職した職員と交流できる日を設ける他、「大文字焼き」等の地域の行事等で、退所後もつながりを持てるようにしている。退所した子どもから、「ここのルールよりも、社会の方が厳しい」等の話があり、子どもたちが真剣に話を聞いている。「アフターケアは一生涯」、「いい大人に育てる」ことが自分たちの仕事であることを、職員は普段から心に留めている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	<p>A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のひびきを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
<p>問題が多様化し、子どもたちの意思や感情の表出の仕方も様々となっている。また、問題を抱え込んで表に出さない子どももあり、普段の様子をよく観察し、介入するタイミングをはかることが大切と感じている。泣くことでしか自分を訴えられない子どもには、他の方法で自分の感情を表すことを学んでほしいと考えており、職員も子どもが泣き止んだから終わりと思わず、どうしたら同じことを繰り返さないか考え、子どもに向き合っていきたいと考えている。</p>		
②	<p>A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
<p>職員一人が6人の子どもを見ている現状があり、子どもたちと個別にもっと触れ合う時間を作りたいという思いがある。現状では夜間だけでも「泣き声が聞こえてから」の対応になりがちである。小さな子どもの部屋には、できるだけ長く入るようにしている。生活の決まりごとはおおまかなもので、あくまでも「子どもたちを保護するためのもの」としている。生活上の細かなルールは、部屋会議等で、子どもたちが話し合いで決めている。</p>		
③	<p>A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p> <p><input type="checkbox"/>朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		

基本的に子どもたちのやりたいことや自主性を尊重している。集団生活の中で問題が起こった時には、まずは子どもの思いを受け入れてから、別の方法もあることを教えて、次につなげるようにしている。自分の中に選択肢がなく、同じことを繰り返してしまう子どももいるので、子どもの発達状態に応じた対応方法について、会議等で内容を共有し、話し合いを行っている。断続勤務を基本としているので、職員配置に配慮しているが、職員の手が充分足りていると感じることは少ない。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

子どもたちの発達の状況をよく観察しながら、子どもに合った養育をどのようにしていってよいか探っている。遊びや学習のボランティアには、大学生や近くのホテルの従業員の方が関わってくれている。また、皆で使う共有のおもちゃと、個人のおもちゃを用意している。パティを組み、年上の子どもが年下の子どもを見る仕組みが定着している。野球等を行う時も、年下の子どもに配慮した行動(年下の子どもでも取れるようなボールを投げること等)を取ることができるよう教えている。遊びやスポーツの中でも、社会での生活を学ぶことができるようにしている。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立することにも、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

園全体で地域の活動に積極的に参加している。職員が学校のPTA役員や、町の要保護児童対策地域協議会の委員等を担い、子どもたちは日曜日の地域の清掃を継続して行っている。挨拶や時間の厳守、金銭管理等、卒園までに子どもたちに伝えたいことが多くあるが、いつもひとつ先のことを考えて行動できるように伝えている。子どもたちは社会のことを知らず、また自信もないので、社会の中では自分も他者も大切であること、人間関係が大事であることを、伝えていきたいと考えている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○

基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。

【コメント】

食事は厨房で調理しているが、主食は各部屋で炊飯している。週末には「部屋調理」を行い、お好み焼き等を作っている。また、おやつにクッキー作り等を行うこともある。食事アンケートを年2回実施し、メニューに反映している。アレルギー対応が必要な子どもには食器を別にして、間違いのないよう配慮している。食事時間を大切に、食事マナーを守りながら、会話を楽しみながら食事をしている。子どもたちが将来、どのような食事場面を作っていくか想像しながら、食事を提供している。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	

【コメント】

近くに衣類を購入できる店がないので、子どもと一緒に購入する機会は年数回しかない。子どもたちの好みを聞いて、職員が購入してくることが多いが、衣類の選択は、子どもが自由に自分を表現できる場なので、とても残念に感じている。こだわりが強く、汚れていても同じ服を着る子どもや、季節に合わない服を着る子どももいるが、その場では注意せず、機会をみて適切な衣類を選択できるよう促している。適切な衣類を選択した時には、皆で褒め、子ども自身が、良し悪しに気付くことができるようにしている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

建物が古く、個人の空間を確保することが難しいため、環境整備には限界を感じている。個室がないため、家具やベッドの配置を工夫して、個人の空間を確保している。個人のスペースは、子どもたちが自分で掃除しているが、それが難しい子どもは職員と一緒に掃除している。先日の台風で温泉の源泉が止まってしまったが、以前の自然災害時に整備した給湯設備により、入浴は確保されている。花壇の手入れや、中庭の家庭菜園、バスケットボールのゴール等、職員が手作りで環境の整備を行っている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○

<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるように説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

通常の内科的な受診は、車で10分ほどの嘱託医まで、フリーの職員が付き添い通院している。アレルギーのある子どもや、てんかん発作のある子ども、喘息で吸入が必要な子ども、熱性痙攣を起こす子ども、骨折等、子どもたちの受診は多いが、専門の病院までは遠く、通院に時間がかかっている。子どもたちの日常の健康管理が必要であるため、次年度から、看護師の配置を決めている。

(6) 性に関する教育

① A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

職員間で情報交換は行っているが、性教育についてのカリキュラムは作っていない。性教育はデリケートな面があり、学校と連携して、差がないように関わっている。子どもにとってどのような知識が必要か、子どもがどう受け止めたかを観察しながら、関わるようにしている。また、児童相談所とも相談しながらすすめている。子どもと一緒に入浴する場面から、教育は始まっていると捉えている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちが抱える問題は内在化し、表出の仕方も様々で、対応が難しいと感じている。子どもが我を失って暴れたりするのを見ると、職員も切なく感じる。園内に一人で落ち着ける場所が必要と捉えている。地域の理解は深まりつつあるが、「うちの子どもに危害を加えられると困る」と言われたりすることも、まれにある。時間をかけて子どもに関わり、職員一人が問題を抱え込まないよう留意し、職員全体で関わるようにしている。

② A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

建物が古く、職員が目が届かない死角もある。職員がいない場で問題が起こり、他の子どもが知らせてくれることがある。子ども間ではどうしても「支配する人、される人」の関係が生じやすいため、大人目、子ども目の両方が必要と感じている。園全体で問題に取り組むためには、職員と子どもの信頼関係の構築が必要と捉えている。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

心理的ケアが必要な子どもは、心理職が面談している。面談は会議室の個室を使用している。心理職の見立てと、普段関わっている職員目を総合して、子どもを理解し、対応するように心掛けている。3年前より、年1回、「子どもの行動チェックリスト」を行い、チェックリストの内容も参考にしながら、子どもたちの変化を捉えるよう努めている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

個別の学習スペースはないが、学習室にて、公文の学習を継続して行っている。公文の学習は、職員が公文本部の指導法の研修を受講した上で行き、知識の習得だけでなく、子どもたちに学習の習慣が身につくよう取り組んでいる。勉強になかなか取り組めない子どもがいたり、また理解度にも個人差があるため、小さい子どもには時間を変えて、個々に対応するようにしている。受験を控えている子どもは、塾に通ったり、通信教育を受けたりしている。学習ボランティアの協力もある。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就労者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証入確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的な面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職業指導員が中心になり、進学や進路の支援を行っている。子どもの将来の夢を聴き取り、夢を実現するためには学習が必要であることに気付くことができるよう、自分の意思で学習に取り組むことを目指している。大きい子どもの学習への取り組み姿勢は、小さい子どもにも良い影響を与えている。ここ15年ほど、不登校になった子どもはいない。子どもたちの卒園後の連絡先を把握し、子どもたちがいつでも遊びに来たり、相談に来ることができる環境を作っている。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/>	職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
<input type="checkbox"/>	アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職場実習や職場体験等は、職業指導員を中心にして取り組んでいる。アルバイト先からは、子どもたちの仕事の様子を知らせてくれることもある。子どもたちの多くは、アルバイトで得たお金を貯金し、進学した時や就職時、独立時に役立てている。子どもたちに資格の取得をすすめ、子どもたちは運転免許やフォークリフト免許、介護、簿記等の資格を取得している。奨学金制度も積極的に活用している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/>	施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるように図っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもに関する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所の職員が交代することもあり、家族と園、児童相談所との関係作りに配慮している。子どもが一時帰宅した際には、保護者に「外泊状況報告書」を提出してもらい、帰宅時の様子を聞いている。子どもの引き取りを念頭においたケースでは、特に振り返りを丁寧に行っている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	家庭支援専門相談員を中心に、ゲームの充実に、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/>	児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

親子関係の再構築の支援のためには、親子生活訓練室等の専用の部屋が必要と捉えているが、現在は専門の部屋がないので課題としている。園の立地条件から、外泊または外出には移動の時間が多くとられるため、送迎を援助したり、園内で親子が面会できる場所を提供したりしている。